

# 西国街道いのくち歴史の散歩道

～いのくち歴史ロマン～

西国街道は、江戸時代に京都と下関を結ぶ西日本の幹線道であった山陽道を広島藩などで呼称したものです。街道の道幅は二間半(約4.5メートル)あり、東海道や中山道などの五街道に次ぐ規模を誇っていました。西国街道における重要な街道として、宿場や一里塚、街道松などが整備されました。井口の区間は急坂が多く西国街道の難所の一つと言われていました。今は、当時の街道が昔のままの姿で残っているところはほとんどありませんが、往時を偲ばせる歴史的な建造物などが現存しています。

石碑は、高さ1.7m、幅1.5m、重さ1.7トン。刻まれた「鈴峰」は、あきのね、広島藩最後の藩主、浅野長勲公の揮毫と記されています。地域の安全を願い、明治31年(1898年)に建立されました。



「鈴峰」の石碑



距離と移動時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
	八幡川	餓鬼の首地蔵	街道松	塩釜神社	道路碑	小己斐明神	昔の井口港	村時代の町並	正順寺	大歳神社	西国街道跡	龍神山	首なし地蔵	一里塚跡	
距離	250m	530m	320m	380m	270m	440m	190m	120m	290m	300m	200m	420m	220m		
移動時間	3分	7分	4分	5分	3分	6分	3分	2分	4分	4分	3分	5分	3分		
駅	広電修大協創中高前駅					広電井口駅	広電井口駅								

コース全体距離 3km930m 移動時間合計 52分 (見学時間を含みません)

**凡例**

- 散歩道のルート (Pink line)
- 昔の西国街道 (Dashed line)
- おもなバス停 (Bus stop icon)
- トイレ (Toilet icon)

※移動時間はおよその時間です